大樽川発電所事業性評価調査事業（令和元年度）

１．事業の目的

本計画地点では、事業用地の境界や地質データなどの基本情報が不足しており、適正な事業性評価を検討する環境下にないことから、小水力開発に必要不可欠な用地測量・地質調査を実施し、事業実施に向けた事業性評価を行うことを目的とした。

２．事業の内容

(1) 事業者名
ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社

(2) 事業名
大樽川発電所事業性評価調査事業（令和元年度）

(3) 事業期間
令和元年 9 月 3 日～令和 2 年 2 月 28 日

(4) 調査を実施した発電設備の概要
a.型　　式：水路式
b.使用水量：1.90m³/s
c.有効落差：62.80m
d.出　　力：940kW

３．平成 31 年度の事業実施概要

① 用地測量
調査区域にて、公図等転写連続図作成、公共用地管理者との打合せ、復元測量、境界確認、境界測量、補助基準点の設置、境界点間測量、面積計算、写真台帳作成、用地実測図原図、用地平面図作成等を行った。

② 地質調査
取水地点と放水地点でボーリング調査を実施した。

③ 総合検討
検討成果について総合検討を行い、今後の実施設計及び建設施工に対する検討事項、課題等について整理した。

（用地測量）境界確認状況

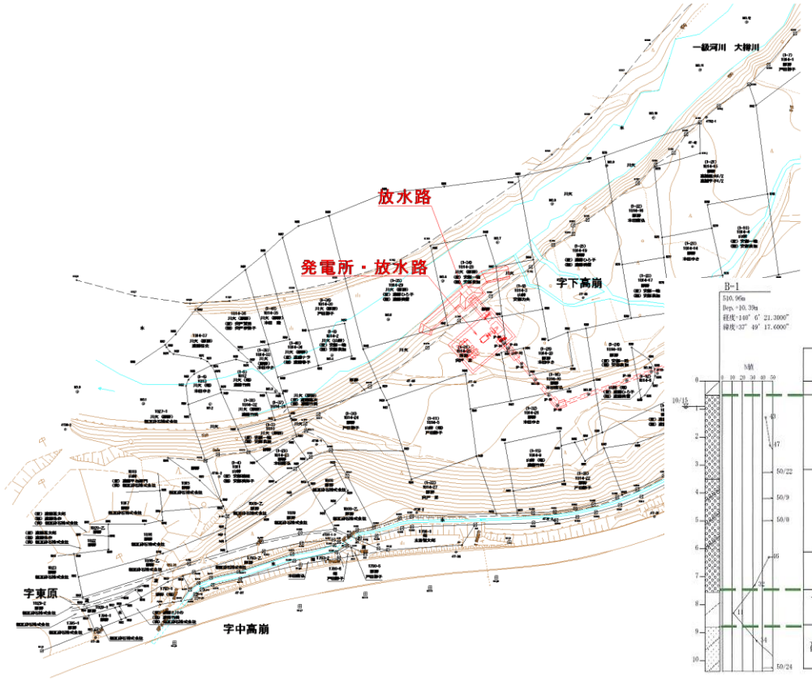
地質調査実施状況

４．事業の成果等

①用地測量
用地測量では公図上では不明確であった各筆の境界を明確にした。

②地質調査
地質調査ボーリングにより、取水堰及び発電所建屋予定地の地質に問題がないことを確認できた。

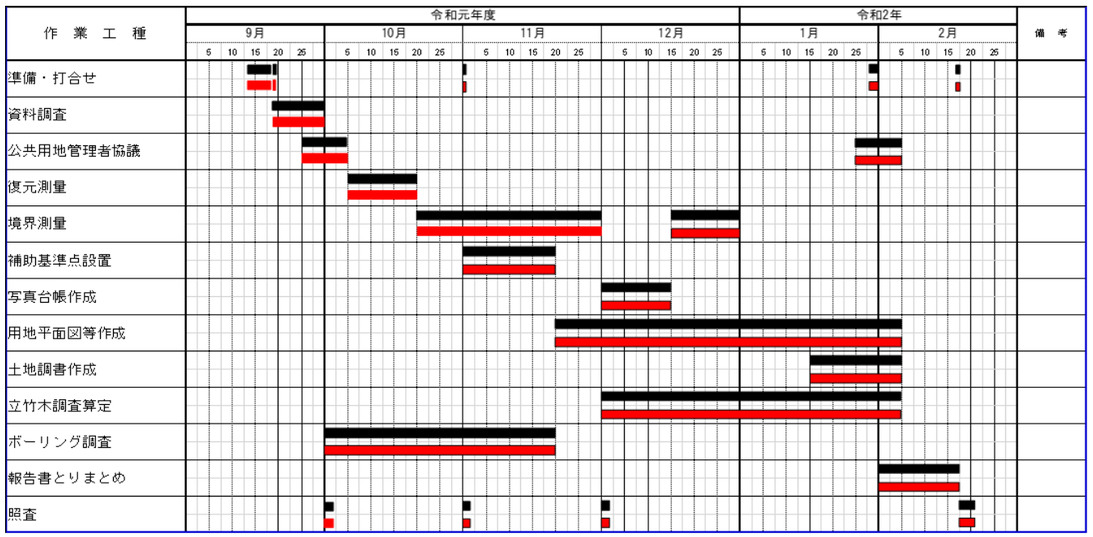
③事業性評価結果
これまでの検討成果から発電所の仕様をまとめ年経費を算出し事業性の評価(IRR 計算)を行った。併せて、事業用地の権利取得の可否をまとめ、当該地点の小水力発電の事業性が有ることが確認できた。



用地平面図（下流部）
（境界を明確にした）

B-1（深度 10.00m　標高 510.96m）

土層区分	層厚 (m)	N 値 (回)	根　拠	支持層
表土	0.50	-	-	-
砂　礫	3.00	52	支持層として妥当。ただし、下位に砂層(N=11)があるため大規模重量構造物では検討を要する。	○
玉石混り砂礫	2.50	230	支持層として妥当。ただし、下位に砂層(N=11)があるため大規模重量構造物では検討を要する。	○
砂　礫	1.55	39	支持層として妥当。大規模重量構造物は検討を要する。	○
シルト混り砂	1.25	11	低 N 値の砂質土で支持層として不適。	×
礫混り粗砂	1.59	48	支持層として妥当。	○

地質調査ボーリング結果
（発電所計画地点）

５．事業スケジュール